

府中市協働事業 第三者評価シート

評価結論

B

事業名称	府中市文化財を知る！ARガイド&AR 街歩き
事業実施者	株式会社 palan/文化スポーツ部ふるさと文化財課
事業目的	広く市民等の文化財への理解を向上させることにより、将来に渡る文化財の保存と活用を推進する。
事業内容	AR(拡張現実)を活用し、文化財を楽しみながら学習できるコンテンツを運用する。
事業目標	当該ツールを使用することにより、特定の人材に依存せず、かつ同水準の知識を学習することが出来る。
制度名	フリー型価値共創促進事業

1 評価結論	B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。 市内文化財について、WebARを活用し親しみやすくした試みは素晴らしい。しかし、今度の展開の積極性が不明瞭であり、課題が残る。今後は、実際の文化財の内容を充実させ、市民に親しまれるようより発展させていくことに期待する。
2 事業について	WebAR の成果物が物足りないように見受けられた。具体的には、見栄えの良い文化財の掲載写真を増やし、内容を充実するなど改善の余地がある。WebARを活用し、属人的な部分に頼らず楽しく文化財を紹介できるよう工夫したことは評価できる。
3 協働の視点について	魅力的なツールの構築や工夫は事業者が行い、文化財の専門的な内容を市が検討するなどお互いの強み、役割を認識した上で今回の協働事業が行えていた。「将来的に持続可能な文化財の維持・活用の実現をする」という明確な事業目標を市と団体が共有しており、対話を重視し、円滑な事業進行ができたと見て取れる。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	成果報告会を受け、今後の展開として、学校教育現場での活用、新庁舎展示室での展示等の新たな試みを含め、積極的に取り組んでもらうことを期待する。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

評価結論

S

事業名称	デフリンピック認知度向上及び聴覚障害理解促進に係る動画制作事業
事業実施者	株式会社 京王エージェンシー/文化スポーツ部スポーツタウン推進課 福祉保健部障害者福祉課
事業目的	1. 東京2025デフリンピックの認知度向上 2. 聴覚障害者への理解普及 3. 共生社会の実現に寄与
事業内容	市在住の聴覚障害者の生活や、市にゆかりのあるデフアスリートの活動、健聴者との交流の様子などを題材とした啓発動画の制作
事業目標	1. デフリンピックの認知度の向上・大会気運の醸成 2. 聴覚障害の理解促進に伴いボランティアや支援者の増加 3. 手話講習会等への参加者の増加
制度名	テーマ型価値共創促進事業

1 評価結論	S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。 役割分担において市側の負担が目立ったが、多様な主体と連携し、きこえる人・きこえない人の意見を効果的に集約し、動画を完成させることができた。動画を広報に活用し、デフリンピックの認知度向上と障害理解の促進を期待する。
2 事業について	動画は、視聴者の感情に訴求し、デフリンピック競技の観戦や聴覚障害理解への強い動機づけを行う魅力的で分かりやすい内容になっており、非常に評価できる。多様な主体からの声を収集、調整するのに苦労したことが推察された。
3 協働の視点について	聴覚障害者協会を筆頭に多様な主体との調整、連携を行っており、対等な原則や目的共有の原則に基づき、各々の強みを生かした役割分担であることは理解できるが、市側の負担が大きいに受け取れた。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	今後も動画を活用してデフリンピックの周知と障害理解の促進を図ることが期待される。特に、府中市内外での広報活動を続けてほしい。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

評価結論

S

事業名称	「ミライをつくるアイデア」の具現化プロジェクト(暗くて怖い道を明るく楽しい空間へ)
事業実施者	テルウェル東日本株式会社/政策経営部政策課
事業目的	市制施行 70 周年事業として、子どもたちの提案を基に、暗くて怖い通学路を明るく楽しい道に変える。防犯性を高め、自然エネルギーを活用した持続可能な製品を使用し、環境にも配慮する。
事業内容	府中市の公道に発光する 2D ナイトコンシェルジュを設置し、小学生のアイデアをデザインに活用して安心して歩けるまちを目指す。
事業目標	小柳小学校の児童が安全性や好感度の高まりを実感できるようになる
制度名	テーマ型価値共創促進事業

1 評価結論	S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。 明確な役割分担の下で事業進行を行った結果、子どもたちがデザインした蓄光板を設置し、暗い道を心が明るく楽しくなるような空間を演出するという、短期間で子どもの未来のアイデアを具現化した夢のある事業であった。
2 事業について	物理的な明るさという点は多少不足するものの、一人の子どもの夢を具現化するに当たり、環境に配慮した蓄光版を小学校の児童がデザインするなど、協働で作成したことが評価できる。
3 協働の視点について	役割分担も明確で、互いの強みを生かしながら、スケジュール通りに業務が進行し、児童のアイデアに寄り添い、児童も主体的に協働に関わる提案であった。約3カ月という短い期間で学校と連携し、事業を実現できたことも評価できる。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	本事業のように子どもの夢を実現する取組が、今後市内外に広がっていくことを期待する。市内にあるその他の暗い地域についても、協働の手法を活用した課題解消に取り組んでほしい。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要があるかなど、再度検討する必要がある。